

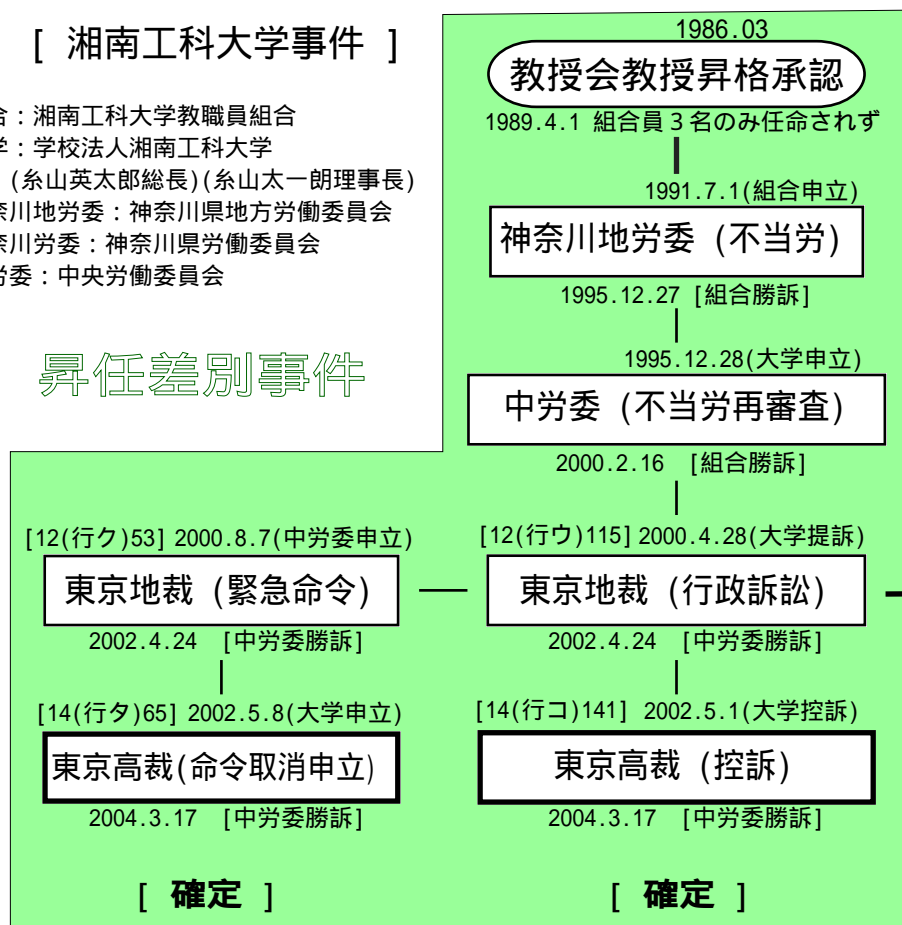
## 勝利解決で支援する会の解散

「組合員の教授昇格差別事件」「組合役員の不当懲戒解雇事件」「譴責処分事件」のすべてが組合の完全勝利で解決し、菊地准教授の完全復職も実現し、湘南工科大学の解雇撤回闘争を支援する会はこのレターの発行をもって活動を終えることになりました。皆様のこれまでの御支援ありがとうございました。

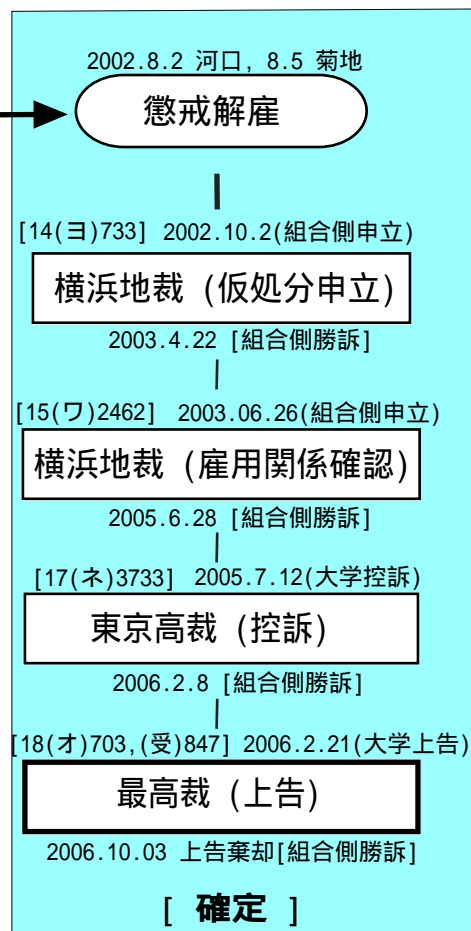
### [ 湘南工科大学事件 ]

組合：湘南工科大学教職員組合  
大学：学校法人湘南工科大学  
(糸山英太郎総長)(糸山太一朗理事長)  
神奈川地労委：神奈川県地方労働委員会  
神奈川労委：神奈川県労働委員会  
中労委：中央労働委員会

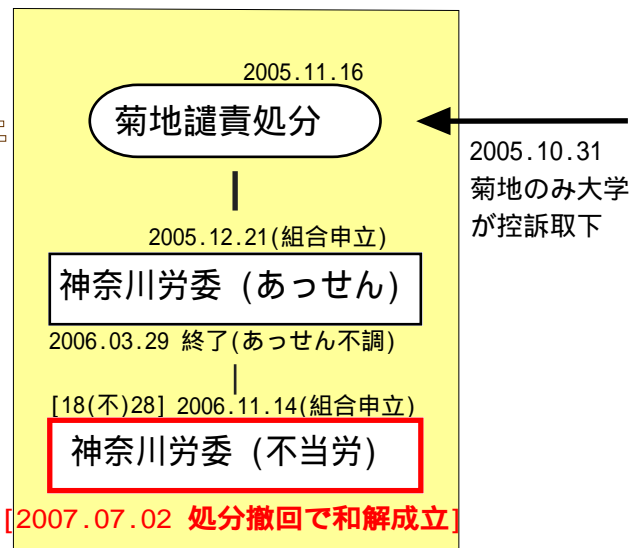
#### 昇任差別事件



#### 懲戒解雇事件



#### 譴責処分事件



## 湘南工科大学では今

2007年12月13日大学で、糸山英太郎総長の「講話」があった。これはカリキュラムに組み込まれているもので、自身のHP( ITOYAMA ORG. )に本人が「湘南工科大学総長特別講演より」として一部を掲載している。糸山総長はまた、学内では「学術サミットの終了」を学外では「糸山政経塾の解散」を上記HPで宣言している。

大学内では、糸山太一朗新理事長が来年度採用からの教職員の賃金切下げを提案して、学内に不安が生じているようである。

## 湘南工科大学の解雇撤回闘争を支援する会

### [代表世話人]

菊谷節夫(神奈川労連議長)  
長谷川正利(神奈川私教連執行委員長)  
岡野内 正(東京私大教連委員長・法政大学教授)  
村瀬弘明(元湘南工大付属高校教諭)  
津久井康之(専修大学教授・元湘南工大教員)  
[世話人]  
小林一章(東京女子大学教授)、塩川宇賢(慶応大学名誉教授)  
森克美(専修大学名誉教授)、山下正勝(東洋大学教授)  
松本正恒(聖マリアンナ医大名誉教授・元湘南工大教員)  
稲積宏誠(青山学院大学教授・元湘南工大教員)、  
深沢良彰(早稲田大学教授・元湘南工大教員)

(裁判関係者・世話人の方々に季節の果物を事務局から送らせていただきました。これは言わば指定寄付で、会の会計から支出されたものではありません。)

## 譴責処分撤回後の状況

7月2日(月)の神奈川県労働委員会で大学の「譴責処分撤回」による和解解決の後、菊地准教授は今年度後期開講の電気電子工学科の講義を担当し、2008年度では電気電子工学科・共通科目・教職科目等の担当が予定されている。

### 会 計 報 告

第5期(2007.04.01-2007.12.20)

収 入	1,149,984.
会費(233+18千円)	251,000
普通口座利子	457
前期繰越	898,527

支 出	909,984.
裁判費用の一部	800,000
印刷費(ビラ用紙代)	1,590
事務費	30,621
会議費	29,543
交通費	3,000
通信費	42,240
振込手数料	2,990

残 額	240,000.
湘南教組カンパ	100,000
東京私大教連カンパ	140,000
(権利闘争特別会計へ)	

### 5年間の会計

(2003.01.14-2007.12.20)

収 入 2,947千円

支 出	
裁判費用	2,000千円
印刷費	276
事務費	105
会議費	115
交通費	36
通信費	158
振込手数料	17

会員数は135(108個人+27組織)

### [事務局]

手塚廣、柿崎敦(東京私大教連) 村瀬弘明、津久井康之、  
二見尚之(湘南工科大学教職員組合)

## 長い間のご支援どうもありがとうございました

菊地慶祐(現湘南工科大学教職員組合委員長)

1991年3助教授教授任用差別事件の神奈川地労委提訴から始まり、本年7月2日の神奈川労働委員会での私への譴責処分の撤回をもって、「任用差別事件」に端を発し、「河口・菊地不当解雇事件」にまで及んだ一連の理事会の不当労働行為事件の16年間にも亘る長い闘いを全面勝利 河口先生を含む3助教授の教授昇格、河口先生の教授会出席、私の大学への完全復帰等で終えることができました。

21世紀の最初の年に、ともに闘ってきた仲間2人を病魔により相次いで失い、さらに、「任用差別事件」当事者3名のうち2名が病魔に襲われるといった悲しい出来事を克服し、完全勝利への光明がやっと見えてきた2002年8月、「任用差別事件」東京地裁の証言に立った河口先生と私に対する懲戒解雇が理事会によって強行されました。

処分直後は、再び長い闘いを強いられることの「出口の見えない」不安や闘いを継続していけるかどうかの不安を抱えておりましたが、多くの方々に支えられ、とにかく闘い抜くことができました。決してあきらめることなく闘ってきたことこそ最大の勝因だと感じております。

とりわけ、支援する会の皆様には、「署名活動」、「大学正門前でのビラまき」、「カンパ」等私達の運動を物心両面で大きく支えて頂きました。さらに、この16年間の闘いが、決して、私達だけのものではないことも実感することができました。

この短い御礼の文章だけで、ご支援下さいました皆様に対する感謝の気持ちを十分にお伝えすることは到底不可能ですが、心から感謝し、御礼申し上げます。

# 私の解雇撤回糾弾闘争

河口 央商（前湘南工科大学教職員組合委員長）

2002年8月2日に懲戒解雇辞令を交付されて以来、満4年を超える歳月を経過した2006年10月3日に最高裁判所の上告および上告受理棄却決定により東京高等裁判所による懲戒解雇無効および違法の判決が確定しました。

この間、東京中央法律事務所における横浜地方裁判所への地位保全仮処分申立準備対策会議を発端として解雇撤回糾弾闘争が8月下旬から具体化され、11月上旬には東京私大教連定期大会において湘南工大教職組執行委員長として河口が8年ぶりに中央執行委員に選任され解雇撤回闘争が首都圏レベルの運動として一体化されました。

2003年1月下旬には、湘南工大の解雇撤回闘争を支援する会が発足し、カンパ活動および団体署名活動が開始され運動が強化され大変心強い思いを実感しました。その甲斐あって、4月下旬には地位保全と合せ本案判決確定するまで給与月額相当分を仮に支払えとの仮処分命令を勝ち取ることが出来て勝利への展望が開けました。

2003年6月から始まる横浜地方裁判所における地位存在確認請求訴訟（解雇撤回を求める本訴）および東京高等裁判所における同控訴審の進行中には、湘南工大の解雇撤回闘争を支援する会が湘南工科大学正門前で、数次にわたり学生および教職員に解雇撤回と大学の正常化を求める朝ビラを配布して大学および周辺の世論を喚起して運動を盛り上げてくれました。終いには「部外者は黙ってろ」という理事長の悲鳴になりました。

1991年7月1日の神奈川地労委提訴に遡る組合員3助教授の違法な教授昇任差別事件に対して、中央労働委員会の再審査および東京地方裁判所の行政訴訟と3連敗した糸山理事会が万策尽きて同控訴審中に河口央商および組合代表として弁論に立ってくれた菊地慶祐助教授の懲戒解雇に及んだ蛮行は、東京高等裁判所の裁判長を驚かせたばかりではなく、大学の人心を著しく荒廃させました。その責任は重大です。しかも、河口の定年退職時期を見越して時間切れを狙い、勝ち目もないのに最高裁まで解雇事件を争って完敗したのですから、理事長辞任は当然のことであり遅きに失したというべきです。

1991年7月の地労委提訴から2007年7月の県労委和解（菊地慶祐氏の譴責処分）に到る満16年におよぶ湘南工大係争事件解決の過程で、多くの団体および個人の方々にご支援を戴きました。ここに厚く御礼もうしあげます。

（第5会計年度の2007.4-2007.12に会費納入のあった方には会費納入情報を同封しています。）

No.	名前	口数 / 所属	住所	金額 / 電話	情報開示 / 納入方法	日付
-----	----	---------	----	---------	-------------	----

# 喜ぶ仲間の姿を思い起こして

東京私大教連・権利闘争対策部副部長 手塚 廣

河口さんと菊地さんに対する不当きわまりない懲戒解雇を撤回させ、河口さんについては教授会への参加を勝ちとり、また、菊地さんについては懲戒解雇の撤回と同時に為された譴責処分を撤回させて教壇復帰を実現し、「支援する会」を閉じる時を迎えました。この懲戒解雇事件は、1986年3月に教授会が決定した教授昇格人事に対し、理事会が「組合員は教授にしない」というあからさまな教授任用差別に反対するたたかひの過程で起きました。教授任用差別事件で神奈川県地方労働委員会 中央労働委員会 東京地裁と負け続けた理事会（当時・糸山英太郎理事長）が、敗訴への報復として行った暴挙が、東京地裁で証人となった河口さんと菊地さんに対する懲戒解雇でした。

2004年3月に東京高裁で教授任用差別事件の勝利判決を勝ちとり、当事者3名全員を教授に任用させ、2005年10月には高裁への控訴を取り下げさせて菊地さんの懲戒解雇撤回を勝ちとり、2006年10月の最高裁勝利判決で河口さんの懲戒解雇撤回をたたかひとり、2007年7月には譴責処分は不当労働行為であると訴えていた神奈川県労委での和解で菊地さんの譴責処分を撤回させました。これらの勝利は、21年間、たたかひの輪を拡げながらさまざまな妨害に屈せず怯まずたたかひ続けてきたからこそその貴重な勝利です。

湘南工大教職組が東京私大教連に加盟された時から関わってきた私としては、感慨深いものがあります。最後までたたかひ抜いた河口さん、菊地さん。亡くなられた鶴間元委員長（教授任用差別事件で県労委に提訴）と土屋元副委員長（不当配転で勝利）。教授任用差別事件の当事者でありながら病で退職せざるをえなかった平良さん、岩崎さん。少数組合であっても職場でがんばり続けた組合員のみなさん、この中にはすでに定年等々で退職された組合員も少なくありません。早朝ビラ配布に駆けつけてくださった高校組合の退職者、そして高校組合のみなさん。長きにわたって私たちと共に歩み、怒り、私たちを叱咤激励し、緻密な弁護を展開していただいた田原・金井・斉藤弁護士。東京私大教連と支援する会の時々の呼びかけに応えてくれた首都圏私大教職組、日本私大教連、全大教、神奈川私教連、神奈川労連、そして地元地域の仲間たち。支援する会の事務局を担われた津久井さん、村瀬さん……。多くの人たちのたたかう姿が次から次へと思い出され、胸が熱くなります。みんなみんな喜んでいてと思います。

このたたかひに関われたことは私の誇りです。たたかひの諸成果を私大の運動に、また湘南工大で始まっている高校組合と共同した運動に活かしていくよう頑張りたいと思います。支援する会のみなさん、ありがとうございました！